

東北地方 1か月予報

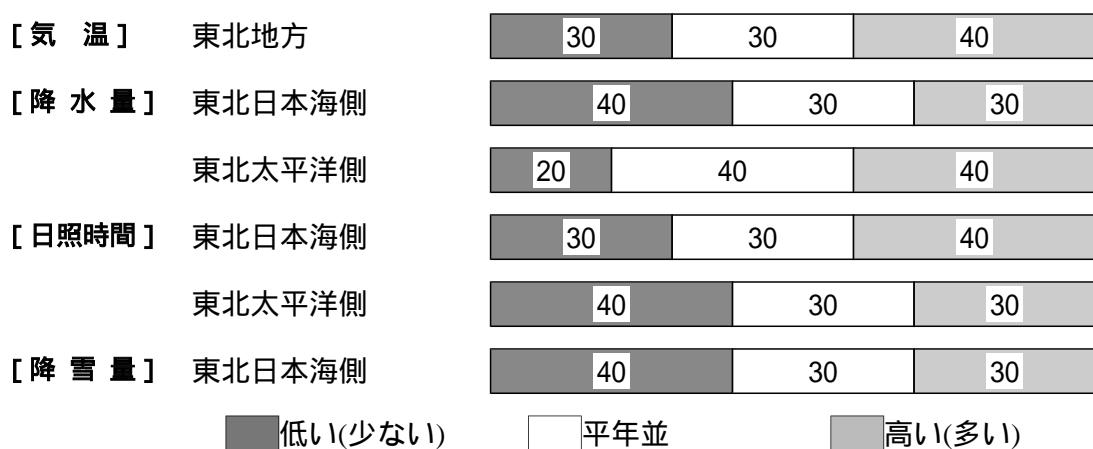
(1月6日から2月5日までの天候見通し)

平成19年1月5日
仙台管区気象台発表

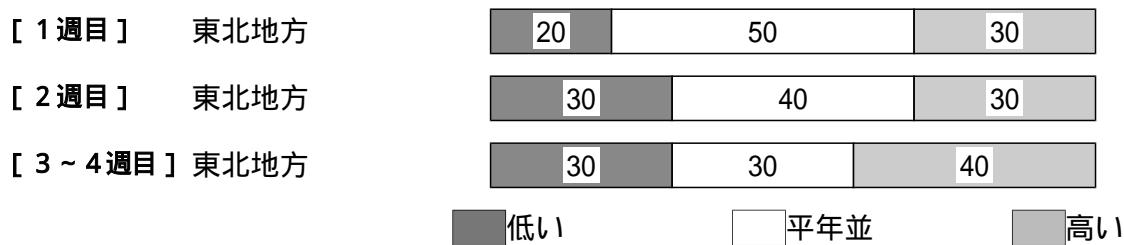
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
平年と同様に冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。1週目中頃から2週目前半にかけて一時的に強い寒気が南下するため、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。
降水量は、東北太平洋側では平年並または多い確率がともに40%です。
週別の気温は、1週目は平年並の確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 1月 6日(土) ~ 2月 5日(月)
1週目 : 1月 6日(土) ~ 1月 12日(金)
2週目 : 1月 13日(土) ~ 1月 19日(金)
3~4週目 : 1月 20日(土) ~ 2月 2日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は1月12日
3か月予報：1月25日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪量 (cm)	気温()		
					1週目	2週目	3～4週目
青森	-1.6	148.0	59.3	264	-0.9	-1.4	-1.9
深浦	-0.6	92.4	33.3	135	0.2	-0.3	-1.0
むつ	-1.7	93.0	80.0	178	-1.0	-1.5	-2.1
八戸	-1.3	50.9	136.5	105	-0.6	-1.1	-1.7
秋田	-0.2	110.1	48.4	147	0.4	-0.1	-0.6
盛岡	-2.2	51.1	128.4	115	-1.7	-2.1	-2.5
大船渡	0.5	46.1	151.6	28	1.2	0.7	0.2
宮古	0.0	58.2	165.2	45	0.8	0.2	-0.4
仙台	1.3	35.1	155.5	38	1.9	1.5	1.0
石巻	0.4	36.3	171.2	10	1.0	0.5	0.0
山形	-0.7	77.1	92.1	171	-0.1	-0.6	-1.0
新庄	-1.5	180.3	44.7	294	-1.0	-1.4	-1.7
酒田	1.2	147.2	42.3	150	1.9	1.4	0.9
福島	1.3	46.2	141.2	93	1.8	1.4	1.0
若松	-0.8	80.4	84.6	194	-0.3	-0.8	-1.1
白河	0.0	30.7	165.2	62	0.6	0.1	-0.3
小名浜	3.4	49.5	192.8	0	4.0	3.5	3.1

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.8	75～108	95～107	88～106
東北日本海側	-0.4～+0.7	91～106	92～111	93～113
東北太平洋側	-0.4～+0.8	61～105	96～105	76～104

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.7～+0.7	-0.7～+0.9	-0.5～+0.8
東北日本海側	-0.8～+0.7	-0.7～+0.8	-0.5～+0.7
東北太平洋側	-0.7～+0.8	-0.7～+0.9	-0.6～+0.9

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成19年1月5日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(1月6日~2月5日) :

平年と同様に冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。1週目中頃から2週目前半にかけて一時的に強い寒気が南下するため、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

1週目(1月6日~1月12日) :

期間のはじめは低気圧の影響で雨や雪が降るでしょう。その後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪が降り、東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れる見込みです。なお、期間のはじめは、発達する低気圧や強い冬型の気圧配置により、大荒れとなるおそれがあります。

平均気温は平年並の確率が50%です。

2週目(1月13日~1月19日) :

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。期間の前半は一時強い寒気が南下する見込みです。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3~4週目(1月20日~2月2日) :

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

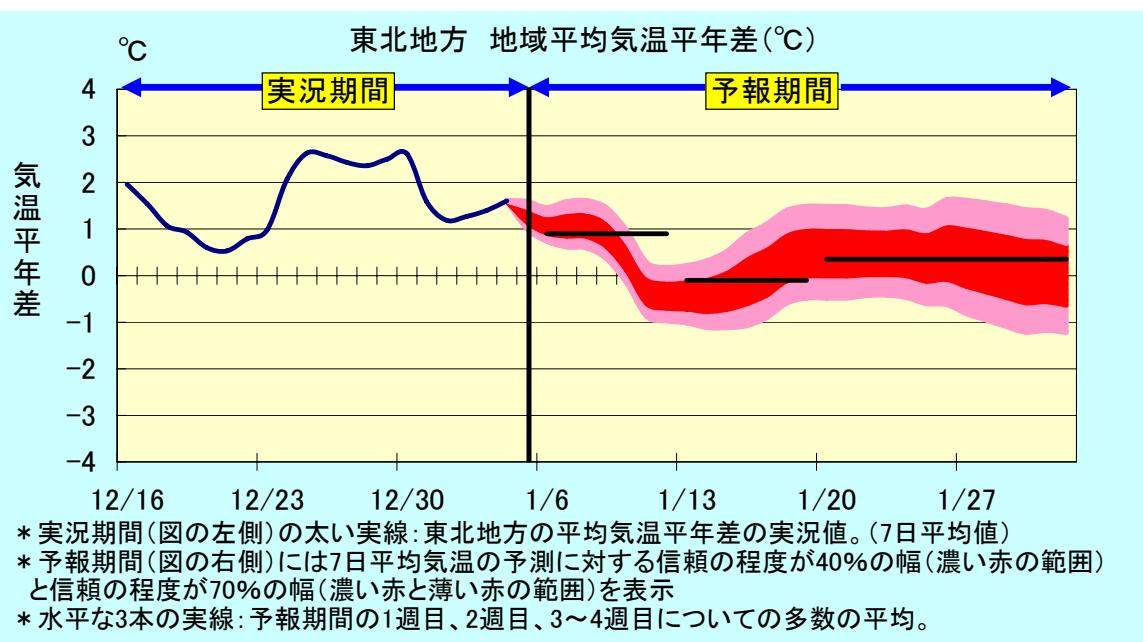
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	4.8日	1.1日	1.3日	2.4日
東北太平洋側	18.2日	4.4日	4.6日	9.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年を上回るが、2週目、3~4週目は平年付近の予想となっている。予報はその他の資料から、1週目の平年並の可能性を大きくする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

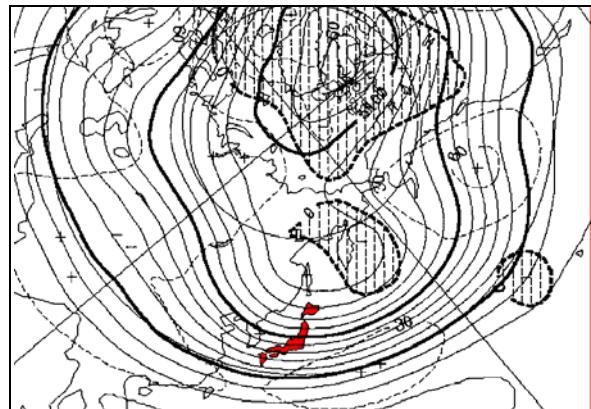


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均: 北半球中緯度は正偏差となる地域が多い。日本付近は南東海上を中心に正偏差に覆われている。一方カムチャツカ半島付近には負偏差が分布。持続的な強い寒気の南下はない見込み。

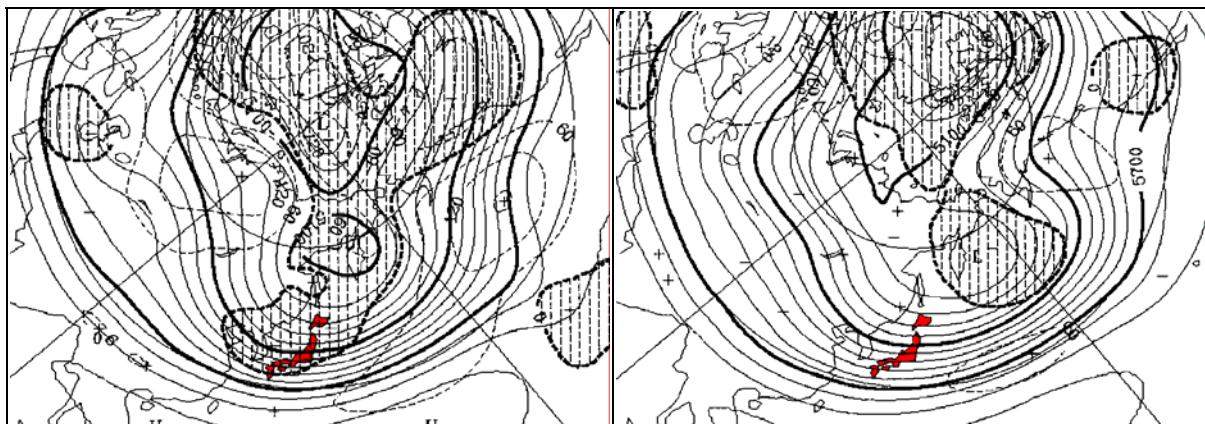
1週目: ヨーロッパから極東域にかけて偏西風の蛇行が明瞭で、東経 90 度付近では正偏差、日本付近では負偏差が分布する。このため、強い寒気が南下し気温が平年より低くなる日がある見込み。

2週目: 日本付近は1週目と異なり正偏差となるが、偏差の程度は弱い。カムチャツカ半島付近は負偏差。期間の前半は一時強い寒気が南下する見込み。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500 hPa 予想天気図

2週目平均 500 hPa 予想天気図

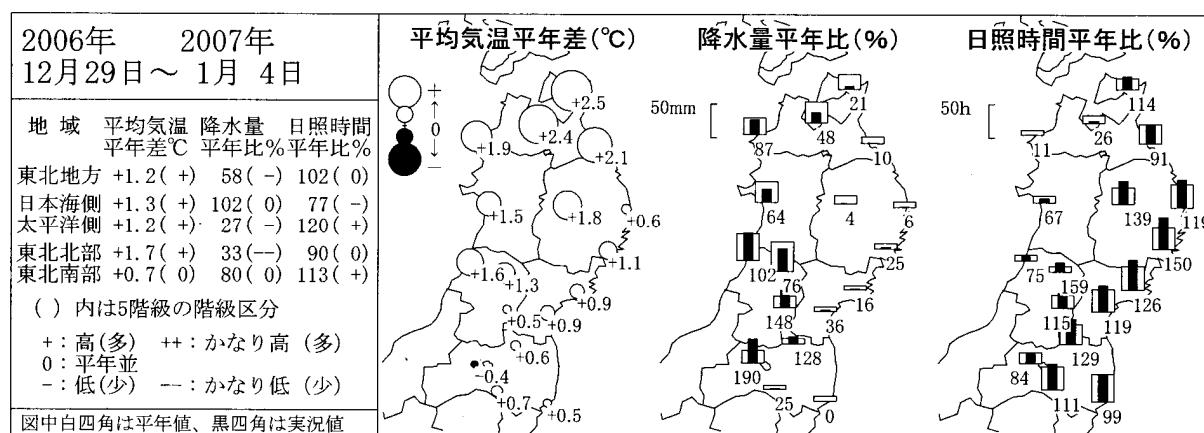
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (12月29日～1月4日) の天候の経過

期間中は冬型の気圧配置となる日が多く、東北日本海側ではぐずついた天気となり、東北太平洋側では晴れの日多かった。29日は強い冬型の気圧配置で気圧の谷が通過したため東北地方は全域で雪または雨となった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

5. 寒候期 季節現象(初日)

2006/2007年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初霜			初氷			初雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	11.19	10.23	10.27	11.20	10.29	11.16	11.12	11.7	11.8
八戸	11.2	10.27	11.16	11.19	11.2	11.16	11.12	11.11	11.15
秋田	11.19	11.6	11.21	11.19	11.13	11.21	11.16	11.12	11.15
盛岡	10.22	10.18	10.26	11.2	10.24	11.1	11.12	11.8	11.15
宮古	11.18	10.31	11.10	11.18	11.5	11.10	11.30	11.16	11.30
仙台	11.18	11.06	11.20	11.19	11.16	12.3	12.2	11.22	12.3
山形	11.9	10.24	11.1	11.19	10.29	11.1	12.1	11.16	11.19
酒田	11.19	11.12	12.6	11.19	11.20	12.6	12.1	11.17	11.30
福島	11.19	11.6	11.17	11.19	11.11	11.17	12.3	11.24	12.3
若松	11.19	10.28	11.1	11.19	11.6	11.1	11.12	11.17	11.16
小名浜	11.25	11.11	11.18	11.25	11.19	11.21	12.29	12.13	12.15

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハッコウダ サン 八甲田山	1584	11.8	10.16	11.8	ガ ンド サン 雁戸山	1485	11.8	10.28	11.10
イワキサン 岩木山	1625	11.8	10.15	11.9	リュウ ザン 滝山	1362	11.8	10.30	11.10
ハシ カミ ダケ 階上岳	740	11.30	11.12	11.19	イズミ ガダケ 泉ヶ岳	1175	11.8	11.6	11.9
タイハイイザン 太平山	1170	11.12	10.31	11.9	ザオウザン 蔵王山	1841	11.8	10.23	10.24
イワテサン 岩手山	2038	10.9	10.13	10.24	アツマヤマ 吾妻山	1949	11.8	10.21	10.23
チヨウカイイザン 鳥海山	2236	10.9	10.9	10.25	イイデサン 飯豊山	2105	11.8	10.17	10.24
ガツ サン 月山	1984	11.8	10.15	10.26	パンダイサン 磐梯山	1819	11.8	10.24	11.9
アサヒダケ 朝日岳	1870	11.8	10.19	11.10					

注：蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

* 大船渡測候所が平成18年10月1日に特別地域気象観測所へ移行をしたことに伴い、大船渡における寒候期季節現象および五葉山の初冠雪の観測は終了しました。